

20世紀最後のキャビノチェ

アントワーヌ・プレジウソについて

スイス西部、ジュネーブに拠点を置く孤高のマイスター、アントワーヌ・プレジウソにより創業された腕時計メゾン。30数名しかいない、独立時計師アカデミー(AHCI)に所属し、イマジネーションから生み出される時の概念を覆すハイエンドウォッチは独創的なデザインで、多くの時計愛好家達を魅了し続けています。

■ ヒストリー



1957年、スイスのジュネーブに生まれる。

幼い頃から父の周りにある時計の部品で遊ぶうちに、時計作りに熱中するようになり時計師を志す。14歳でジュネーブ時計学校に入学。時計修復師としての修行を積み、実践的な専門知識を習得し、5年間の修学の末、輝かしい成績を残し、首席で卒業する。



その後、ジュネーブ最大の高級時計ブランド、パテック フィリップと権威あるオークション会社アンティコムで経験を積み、世界最高峰の時計に携わることで、その時計が製作された時代の歴史や数世紀に渡る時計技術の知識を深める。1981年に初の時計工房をジュネーブに開く。その高い技術は、大物コレクター、有名時計ブランド、ジュネーブ時計博物館などから、極めて希少な作品の修復を任されるようになり、ジュネーブ時計博物館の創立記念として記念時計の製作に取り組む。

その華麗なデザイン、魅力的な複雑機構、最高の仕上げは高い評価を得て、時計業界を代表するブレゲの依頼を受け、腕時計初であり当時最も複雑な時計、ミニッツリピーターパーペチュアルカレンダーの時計の開発と製作をするという前代未聞の挑戦に挑み完成させる。

その後、自身のブランドシグネチャーが刻印されたミニッツリピーターを製作し、回転ベゼルで作動するストライク機構という独創的なメカニズムの特許を取得する。

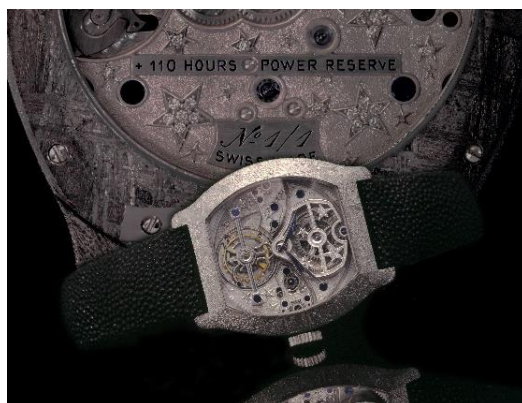


以降も自身のブランドやさまざまな有名ブランドのために独創的な腕時計を製作する。

作品集

https://www.antoine-preziuso.jp/wp-content/uploads/2023/11/2023_issin_web.pdf

プレジウソは、新素材の研究にも力を注ぎ、2002年には、世界初のメテオライト（隕石）を時計のケースに採用したトゥールビヨンを発表。以来、メテオライト（隕石）をケースに採用した作品はブランドのアイコンとなる。



同年にはハリー・ウィンストンと独立時計師のコラボレーションによる革新的な超複雑機械式時計「オーパス」でその第2作となる芸術性の高いトゥールビヨンを開発・製作する。その他、紀元前のギリシャ彫刻から着想を得て、時計のデザインに昇華させた「ジアートオブトゥールビヨン」もこの後、バリエーションを増やしている。

2005年には、世界初の3つのトゥールビヨンが備わる「TRI-トゥールビヨン」を開発し、2つの国際特許を取得。2015年には息子のフローリアンとの精力的な共同作業から生まれた「トゥールビヨン オブ トゥールビヨonz」 Cal,AFP-TTR3X を発表。この時計に搭載されたトリプルディファレンシャル機構は前例のない構造と原理であり、トゥールビヨンの長い歴史に新しい章を刻む。回転するプレートに搭載された3つのトゥールビヨンは、3つの心臓がまるで同調して鼓動するように共鳴し、物理法則と数式を融合させたもので、まさに時計の「頭脳」である。回転するプレートに搭載された3つのトゥールビヨンは互いに共鳴し合い、3つのトゥールビヨンは60秒で1回転、それらを乗せたプレートは10分に1回転する。この機構は極めて複雑で、いかなるコンピュータープログラムもその仕組みの正確なシミュレーションに成功していない。(また、直径1.6mmという世界最小のボールベアリングを作る必要があった。)

トリプルトゥールビヨンについて

<https://www.antoine-preziuso.jp/aboutus/ttr-3x/>

この機構は、時計界で最も権威のあるプライズ、「ジュネーブ・ウォッチメイキング・グランプリ (GPHG)」では「イノベーション ウォッチ賞」と、「パブリック賞」をダブル受賞する。



2018年には、この機構を搭載して総 24 カラットのバゲットダイヤモンドを配した、ハイジュエリーとハイウォッチメイキングが融合したクリエイション「トリリオン トゥールビヨン オブ トゥールビヨンス」を発表。2018年には、〈ジュネーブ・ウォッチメイキング・グランプリ(GPHG)〉に選出される。



2020年には、芸術と文化を繋ぐ分野で特別な功績を残したクリエイターにだけ贈られるガリア賞 2020'のクラフトマンシップ・クリエイション部門の受賞者にも選出される。

2023年には3つのトゥールビヨンをメテオライト（隕石）製のケースに収めた新作「スペースビュー トゥールビヨン オブ トゥールビヨンス」を発表。同年には、自身の名を冠して初めて発表した作品「シエナ」の待望の復刻限定モデルを発表した。



■ フィロソフィー：

アントワーヌ・プレジウソは誇り高きクラフトマンシップの伝統を受け継ぎながらも、既成概念に縛られることなく、世界中の時計愛好家に愛される卓越した作品を数多く生み出してきた。彼が手がける作品は、時計業界の有名ブランドからの依頼であれ、自身のブランドであれ、彼の家系に由来するラテンの芸術性とデザインセンス、そして生まれ故郷であるジュネーブからインスピレーションを得たスイスの熟練した職人技が融合したユニークなもので溢れている。

アントワーヌ・プレジウソの名前は英語でプレシャスという意味であり、彼は自身の才能は神から授かったものであり、プレシャスな物を作るのは宿命である。彼は自身が作るものは常にプレシャスなものでありたいと言う。

彼の作品は商業的に、つまり、マーケティング調査をして作られたことは無く、スローガンに掲げる通り、**‘全ての時計の背後には物語があり、時計製作は芸術であり、時計は芸術作品である。’**

一例として、世界初の隕石をケースに採用した時計を作るきっかけも、家族と別荘で過ごした夜に見た流れ星がきっかけだ。「隕石は、いつできたのだろう？どこから来たのだろう。これを時計に使ってみたい・・・」と。ハンターとコンタクトをすることから始め、サハラ砂漠に出向いた。隕石を見つけた後も、誰も加工の経験が無い隕石の器具をも製作し、隕石を使った時計の製作に情熱を燃やすといった類い稀な情熱と好奇心で溢れている。



1986年に初めて自身の名を冠して発表した「シエナ」コレクションはイタリアの古都シエナへ旅行で訪れた際に、世界一美しい広場と称されるカンポ広場で見えた“マンジャの塔”の時計にインスパイアされて誕生した。

1300年代に建てられた、時を経ても色褪せることの無い時計塔の芸術美に深い感銘を受け、「この旅の余韻に浸りたい、腕に芸術を纏いたい」と考え、この美しい針を使った時計を作ろうと決断する。当時のテクノロジーは今ほど進化して無く、この美しいレース状の針の製作は困難をきわめ、断念することも考えた。しかし、それでも諦めず、長い時間をかけて製作を実現させる。それは、0.15mmの薄いステンレスプレートに針のデザインを印刷し、酸を流して溶けない部分である針のデザインを残すという方法だった。さらに、この薄く繊細な針は塗装や研磨などが難しく、さらに製品化するまでの時間を要した。このように、プレジウソは自身の作品に対して芸術として向き合い、その情熱と不可能な物をも可能にする、忍耐力も備えている。



■ アントワーヌ・プレジウソとトゥールビヨン

トゥールビヨンは、星の動きという意味で、プレジウソは、宇宙にとっても興味があった。宇宙には時間が存在しないので、どんなものだろう、といつも宇宙に思いを馳せていた。トゥールビヨンの、心臓の鼓動のような動きは、まるで生きているような魅惑的な動きで美しく、複雑機構は彼の想像力を新しい地平へと誘い、時間を全く違う角度から見ることを可能にしてくれた。2005年に開発された、3つのトゥールビヨンがそれぞれ回転しながら全体のプレートも回転する動きは、惑星の自転と公転運動がヒントで宇宙や惑星にインスパイアされたものだ。

■ 3P、Passion, Patience, Perseverance, (情熱、忍耐、根気)

複雑時計を作る上では、創造力だけでは無く、(3P、Passion, Patience, Perseverance, 情熱、忍耐、根気)が非常に重要な要素である。トリプルトゥールビヨンは、570ものパーツで構成されており、1つでも不足したり、埃が入っていると動かない。息を止めて想像を絶するような集中力を要する。トリプルディファレンシャル機構を発明するまでは、フロ

ーリアンは、何年も考え続け、最後の2年間は、24時間、寝ている間ですえ数式を考え続けて発明されたものだ。

■ 家族の創造性

フローリアン プレジウソ

フローリアン プレジウソは飽きなき好奇心の持ち主であり、何にでも興味を持ち、新しいテーマに情熱をもって取り組むなど常に学ぶことに熱心だった。フローリアンは、レーシングドライバーになることも、天文学者になることも、鉱物学者になれることもできました。しかし、彼の素質と才能と経験といった面から見れば、時計製作はまさに天職だった。1987年、アントワーヌが実家に工房を構えたとき、フローリアンはまだ5歳だったが、彼は歯車と歯車の連動を観察し、部品で遊び、メカニズムに驚嘆し、父が働く独立時計製造の扉の向こうで才能を形成してきた。世界中から顧客がアントワーヌの仕事を訪れたとき、フローリアンは必ずその場において父の仕事ぶりに触れ、また、父と一緒に旅行し、新しい国々を体験した。父が通っていたジュネーブ時計学校で時計の勉強に打ち込み、2001年には実技試験を首席で卒業。その後、数年間、一流時計ブランドで経験を積み、複雑なトゥールビヨン・レギュレーターの高評価を得て、彼は独立と創造の自由を選び、2006年にファミリービジネスに加わった。

親子は比類なきクリエイティブ・デュオを形成することになる。溢れ出るアイデアのために二人は常に挑戦を行っている。アントワーヌが提案し、フローリアンが実現されることも、その逆もある。二人は、共振を利用して周波数を収束させる新しいタイプのレギュレーターを発明するという野心に挑み、それは限られた時間の中で簡単に解決できるようなことではなかった。父と息子は辛抱強く取り組み、年月は流れる。他のプロジェクトも動き出し、父アントワーヌとの仕事と同時に、フローリアンはマイクロメカニクス、ムーブメント設計、研究開発、生産管理など、一流の時計を製作する企業として必要なことに取り組み、又先端技術のための独自のプロジェクトを立ち上げた。

10年近い歳月を経ても、親子二人により新しいトゥールビヨン・プロジェクトの結論は出なかったが、フローリアンは粘り強く取り組み、諦めることはなかった。2015年、彼は、画期的なトリプル・ディファレンシャル機構を発明し、国際特許を取得。ジュネーブ時計グランプリで優勝した「トゥールビヨン・オブ・トゥールビヨンズ」は父と息子二人の卓越した時計製作への情熱から生まれたのだ。



フローリアン プレジウソとスイス HONDA のコラボレーション‘スターダスト’限定バイク
隕石が施されたバイク。

ローラ プレジウソ

ローラはジュネーブのエコール・ダール・アップリケ校でジュエリーを学び、2004年にハンス・ウィルドルフ財団のコンペティションで優勝した後、2006年6月に首席で卒業。その後、彼女は製作のみならず、エコール・ダール・アップリケ校での教鞭にも時間を割いている。自立と強調の融合を育む彼女の姿勢は、明らかに父親の芸術へのアプローチを彷彿とさせ。彼女の製作したアニメーションジュエリーコレクションの中で、「トゥールビヨンオブラブ」は、ホワイトゴールドのメダリオンにルビーがセッティングされ、トゥールビヨン・キャリッジが搭載された驚くべきモデルである。

愛を表現し、相手のために、心を躍らせていることを伝えるたまらなく魅力的な方法だ。愛は時を超越しているので、この優美なジュエリーに時間を示す針は不要だった。ローラプレジウソがデザインしたこの新しいオートジュエリーの解釈は、一族の伝統に調和した自由な創造性を反映している。

